長洲町立長洲小学校　校長便り　No.６１

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年１月１０日(火)

あけまして おめでとう ございます

今日は冬休み明けの集会が実施されましたが、子供達の元気な姿が私のモチベーションを上げてくれたのと同時に、「いよいよ始まったな…」という緊張感も覚えた一日でした。

冬休みを振り返ってみますと、我が家ではコロナ感染騒動から始まり、家族全員家中「消毒、消毒！」と、年末は室内の換気も含め家庭訪問並みの大掃除をしました。奇麗にはなりましたけど、年末年始のお正月気分を味わう余裕もなく、あっという間に休みが終わったという感じでした。昨年からそうですが、コロナ禍に振り回されることが多いですね。

さて、「1月」「2月」「3月」は、それぞれ「行く」「逃げる」「去る」と表現されるように、あっという間に時間が過ぎていきます。6年生を例にとってみましょう。6年生が長洲小学校で過ごすことができる期間はと考えてみますと、なんと残り50日くらいですね。早いですねぇ。ピカピカの1年生として入学した日からもう6年が過ぎようとしているのです。そんな視点で6年生を眺めていますと、「かけがえのない時間を大事に過ごして欲しい。自律して欲しい。」と切に願う澤田です。

子供達を教え育てるという事とは

私達教師にとっては「永遠のテーマ」的な見出しとなってしまいましたが、そもそも「教育」って何？　という疑問について冬休み、教え子の教師達と考える時間がありました。

多くの考え方が出されましたが、私の考える「教育」とは「将来の継続的な成長のために少しずつ『無理』をさせること」です。この「無理」がとても重要で絶対条件として少し頑張れば達成できる「無理」を継続させることに意味があります。

ここで、保護者の皆様に質問です。こんな時どうしますか？　ある課題に取り組んでいる途中、「お母（父）さん、まだやるの？」と聞いてきたとします。私の考えはこうです。「よく頑張ったね。じゃあ次はここまで頑張ってみよう。もう少し進めてみよう。」というようなニュアンスの言葉かけをします。努力の継続と課題達成の成就感を味わわせるために、非常に重要な場面だと思います。皆様はどうお声掛けされますか？

令和5年に入り6年生は卒業に向けて多くのことに取り組みますが、それが帳面消しにならないよう、そこに学びがあるようにしていきたいものです。しかも、これから卒業までの時間は、中学校に入学するまでの、心身の準備期間とも言えます。中学校では、自己中心、甘え等の言動は、今以上に通用しなくなり、努力継続が求められます。小学校は、自己決定、自己解決、努力の継続、自己責任を体験することのできる大切な学びの場所です。保護者の皆様も、お子様の言動を鵜呑みにしたり、無条件に擁護したりしていると、しっぺ返しがあるかもしれません。少し子供達を突き放す姿勢が必要になってきます。これは私の経験則として断言できることです。目標に向かって努力する習慣を付けていくことは、将来的にどのような場面でも役に立ちます。

シリーズ「自分を語る」#61

病気ケガの話題を一旦ストップしまして、その他について書いてみましょう。

平成10年度の夏休み以降は、特に大きな事件もなく過ぎていきました。玉名町小3年目ということで、名前はわりと知られていて、行事を楽しみにしている子供達や保護者がいるとの情報もありました。有り難いことです。私自身も楽しんでいる行事なのに、それを楽しみにしてくれる方々がいると思うだけで、力も湧いてきます。

平成11年度は5年生を担任させて頂くことになりました。担任発表の日から保護者の皆様より「期待感」の連絡があったことを思い出します。

この頃から今まで以上にエネルギッシュに活動するようになり、思いついたことを即行動に移すという具合で、他の先生方には少々ご迷惑をお掛けしたなと反省しています。また、「慎重に丁寧に」という視点が弱かったのか、保護者の皆様にご心配をおかけすることも多かったようでした。それでも支えて下さる保護者の皆様には感謝しかありませんでした。

この年、私が行ってきた新規の行事として「学級キャンプ」があります。キャンプも当然夏休み中に行われます。ということは、私が担任させて頂いた学級では夏休み中に2つの大きな行事があることになります。「キャンプ」と「ナイトハイク」です。この頃はナイトハイクに関してはコースも決まっていて、実績もあったのでスムーズに行事が流れていきました。問題はキャンプです。キャンプと簡単に言いますが、ノウハウの無い者にとっては企画段階から大変です。保護者の皆様と何度となく話し合いをして、ようやく決まった場所は「小代山ふるさと自然公園丸山キャンプ場」でした。玉名市が管理するキャンプ場で、安く使用できるという理由で決定した場所です。このキャンプ場はネットで調べると「上級者向け」のキャンプ場らしく、何となく苦労したことを思い出します。テントは玉名市の社会教育課から借用しました。

当日、保護者の皆さんは借りてきたテントをテントサイトに運び、テント設営と食事の準備。私と一部の保護者、子供達は、なんと「真夏の登山」です。小代山系の観音岳登山なのですが、これも景色がきれいだからという単純な理由だけで決めました。確かに景色はきれいでしたが、とにかく暑かったのを思い出します。距離が短いので誰も熱中症になるような子供はいませんでしたが、考えてみれば少々怖いですね。私も保護者の皆さんも「フリ」で動いていた印象があります。ただ、それだけ学級が子供達と保護者と担任とがしっかり結束していたということは、紛れもないことでした。

このキャンプではキャンプらしい行動は「登山」と「キャンプ・ファイヤ」だけでした。移動と食事の準備に多くの時間を費やし、キャンプらしいと言えばキャンプらしいし、でも思い出深いと言ったら、「暑さ」と「テントをキャンプ・ファイヤで焦がしたこと」くらいでした。子供達は「楽しかった」と言っていましたが、もう少し活動を多くして、保護者の負担も少なく、食事もできれば作らない？でいい、参加しやすいかたちで計画ができないものかと考えることになりました。一人でも負担に感じてしまうと後が続きませんからね。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）

持久走大会特集